

# 道徳だより

どう Do 徳 ?  
どう 説く ?  
どう 道 talk



テーマ：「やってみたい」がいっぱい！「授業実践力向上講座」

令和 6 年 7 月  
京都市立道徳教育研究会  
広 報 部  
( 第 2 号 )



## 道徳的な問題を「自分事」として考える授業展開の工夫

- ☑ 道徳科として子どもたちに育てたい資質・能力
- ☑ 道徳科の教材分析やめあて・発問づくり・役割演技のポイント



### Let's check 3つの価値理解

#### 価値理解



(例)

- 「こうしてほしいだろうな」と思うことをするのが親切なのだ。
- 手を差し伸べず、見守る・やらないが、「思いやり」になること、確かにあるなあ。

#### 道徳的価値の理解

#### 価値理解

実感を伴って道徳的価値のよさを理解する

#### 自己を見つめる 自分事

#### 人間理解

#### 他者理解

実現できない人間の弱さ 感じ方、考え方の多様さ

#### 人間理解 (例)

- ずるいところや弱いところって、どんな人にもあるんだな。
- 「高齢者に座席を譲るのが正しい」って分かっているけど、なかなかできないよ…。



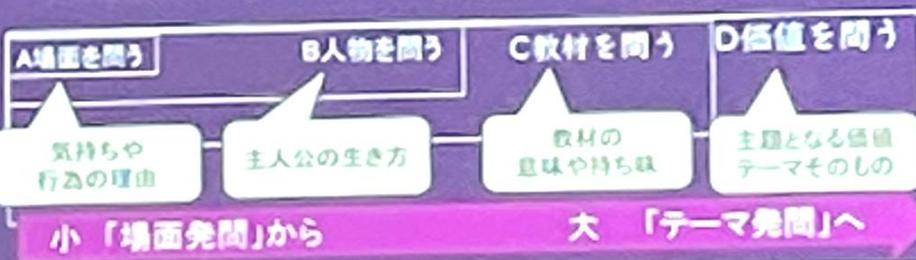
#### 他者理解

(例)

- ぼくはこう考えたけれど他の人は全然違う考え方なのだ。
- 自分の「当たり前」は当たり前じゃないのだな。



### Let's check 子どもたちが自己の生き方について考えられる「問い」



「教科書を読めば分かる」ではない、「価値」を見つめる「問い」を意識しよう！

「展開後段」は自己内対話のチャンスです。「自分事」として考えられる発問…どんなものがあるでしょうか？

- |   |  |   |  |
|---|--|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>～の時〇〇はどんな気持ちか。</li> <li>～の時〇〇はどんなことを考えたか。</li> <li>～の時〇〇がそうしたのはなぜか。</li> <li>～の時自分が〇〇ならどうするか。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>〇〇の生き方をどう思うか。</li> <li>〇〇の心を支えているのは何か。</li> <li>〇〇と〇〇の考えはどう違うのか。</li> <li>〇〇にどんなことを言いたいのか。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>この話からどんなことが分かるか。</li> <li>この話のどんなことが問題なのか。</li> <li>この話の〇〇についてどう思うか。</li> <li>この話が心打つのはなぜか。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>自分は〇〇についてどう考えるか。</li> <li>本話の〇〇とは何だろうか。</li> <li>〇〇はなぜ大切なのか。</li> <li>〇〇と〇〇はどんな違いがあるか。</li> </ul> |
|---|--|---|--|

京都市立道徳教育研究会

# 道徳科の授業づくり ～めあて・中心発問・役割演技～

内容項目：A 善悪の判断、自律、自由と責任 第2学年「わりこみ」（「生きる力」日本文教出版）

## 大切にしたいこと

- ▷ みんなが参加できる授業づくりをする  
～ 思いを表出できる場を設定する ～
- ▷ 板書をシンプル化させる  
～ 挿絵は大きく、言葉は少なく ～



コーディネーター  
桃山南小学校  
教諭 安藤 友里  
(シニアマイスター)



## Let's check こんな考えが生まれました

### めあて

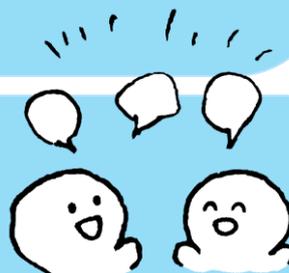
- ① 正しいことを続けると、わたしの心は  
どうなるのだろう。
- ② 正しいことを選ぶと、わたしの心は  
どうなるのだろう。
- ③ どうして正しいことを選ぶのだろう。
- ④ あなただったら、どちらを選びますか。
- ⑤ どうしてわりこみはいけないのだろう。
- ⑥ どうして正しいこと（よいこと）が大  
切なのだろう。
- ⑦ どうやって、正しいことと、悪いこと  
を決めたらよいのだろう。
- ⑧ よいことを進めるために、大切な  
ことは何だろう。

### 中心発問

- ① 「ぼくの後ろならかまわないかな」と思ったの  
に、「わりこみはいけないよ」と言ったのはど  
うしてだろう。→「かまわないかな」と迷う心  
があるところに注目してほしい。  
→理由を尋ねるのは、低学年には難しいのでは  
ないだろうか…。
- ② 「やっぱりわりこみは いけないよ」と言った  
のは、どんな考えからでしょう。どんな思いか  
らでしょう。どうして言ったのでしょうか。
- ③ （先に役割演技をしてから）どうしてぼくは  
「やっぱりわりこみはいけないよ」と言ったの  
だろう。

### 役割演技について

- ① 役割演技の中で、「ぼく」の後ろの子の気持ちを問う。  
→「ぼく」に「はっきり伝えてよかった」と感じさせられるようにしたい。
- ② けんじさんを先生がサポートして役割演技をする。
- ③ 実際に何人か並ばせ、教材の場面を再現する。その時に、ぼくはいつの時点で「いけない」と気  
付いたのかを問う。
- ④ 「わりこみはいけないよ。だってね…」 この後を考えさせる。



今回検討した「わりこみ」は、7月31日の授業実践力向上講座で実践提案されます。

【文責 保本 貴之（西陣中央小学校）】